



クールシティ推進事業

平成29年度要求額
42百万円(43百万円)

事業目的・概要等

背景・目的

- 人工排熱の排出抑制等の「緩和策」には長期的な取組が必要
- ヒートアイランド対策大綱の改定の中で新たな取組に暑熱環境対策としての「適応策」が追加
- 温暖化やヒートアイランド現象等による気温上昇に伴う人への暑熱ストレスの増大

事業概要

適応策を中心としたヒートアイランド対策の強化

- ① 適応策を導入したモデル事業の検証及び普及
- ② 街づくりの視点からの暑熱環境デザインの手法等の調査・検討
- ③ 効果的な「暑さ指数」の情報発信の検討
- ④ 熱中症予防情報サイトの継続的提供

事業スキーム



※「暑さ指数」とは、人体に与える影響の大きい ①湿度、②日射等からの輻射熱(黒球温度)、③気温の3つを取り入れた熱中症のかかりやすさを示す指標です。

「適応策」を中心に調査・検討を実施

イメージ

- ① 複数の適応策(街路樹、ミスト、打ち水など)を導入したモデル事業(大阪府高槻市、枚方市)の効果検証、まちなかの暑さ対策ガイドラインの普及啓発を図る。
- ② 街路空間の適応策の普及に必要な「導入すべき場所」「導入後の効果」を判定するための指針策定等を行い、さらに「街づくりの視点からの暑熱環境デザインの手法」についても検討に着手する。
- ③ 暑さ指数(WBGT)の情報提供では、特に熱中症が発生しやすい実生活の具体的な場所(建設作業現場と河川敷等)における暑さ指数(参考値)の調査・検討を行う。
- ④ 環境省熱中症予防情報サイトで現在提供している全国約850地点における暑さ指数(WBGT)の予測値・実況値について、さらに予測精度を高めるため実測地点を四国・沖縄に追加し、インターネットによる熱中症予防のための一層の情報提供を推進する。

期待される効果

人への暑熱ストレスを低減させる「適応策」の普及を推進

(適応策: 街路樹やミスト、打ち水、日射高反射塗装等による暑熱環境の回避等)

「適応策」の事例
(左: 緑陰、右: ミスト)

